



グループ一丸で取り組む

「安全は全てに優先する」風土づくり



住友電工グループでは

「安全」を経営の最重要課題の一つと位置づけ、

労働災害撲滅に向けた取り組みを

世界各国の製造拠点において積極的に進めています。

特に多くの製造拠点が集まるASEANでは

重点安全活動を毎年実施するなど

グループ・グローバルな安全管理レベルの向上に努めています。

今回は、その活動の成果が顕著に現れている

マレーシア、インドネシア2社の取り組みについてレポートします。

MALAYSIA / INDONESIA





海外製造拠点に深く浸透する住友電工グループの 設備安全・安全管理グローバルスタンダード

事業のグローバル化の進展による海外製造拠点の増加に伴い、危険予知活動や設備の安全対策、安全衛生教育体系の整備といった安全活動の重要性が高まっています。そのため住友電工グループでは、2009年度から「グループ・グローバル安全・保全力診断」をスタートさせるなど、労働災害の撲滅を目指し、診断・改善を繰り返す重点的な安全活動を実施しています。全社統一基準として、2011年に「設備安全グローバルスタンダード」を、2015年に「安全管理グローバルスタンダード」を制定し、その基準に基づいて、2015年度から「重大災害未然防止点検」を「安全・保全力診断」と併せて行っています。

安全活動においては、各拠点をASEANと一括りにすることはできません。グローバルスタンダードを土台として、異なる文化や慣習を持つ各国の特色に応じた独自の安全活動を展開することで、全従業員のさらなる安全意識の向上を図っています。グループ一丸となって取り組む活動が今、海を越えて確かな成果を上げています。

SEPM

Sumitomo Electric Interconnect Products (M) Sdn, Bhd



- 事業内容: 電子ワイヤー製品の製造・販売
- 社員数: 800名

マレーシアに1988年に車載用電線などの製造・販売を担う拠点として設立。マレー系、中華系、インド系といった多民族で構成されるスタッフが製品の安定供給と事業の拡大に努める。

WIN-I

PT. Sumitomo Electric Wintec Indonesia



- 事業内容: 巻線の製造・販売
- 社員数: 185名

インドネシア・ジャカルタのMM2100工業団地に1995年設立。2002年から住友電工グループとなり、2008年には100%子会社化。電装品用途の巻線を主に製造。